

○開かれない国会

国会が開かれません。福島原発の汚染水問題、年金や医療改革と消費税の一体改革の中身、TPP、憲法と団体的自衛権などの課題は、国会論戦を通じて国民に説明されなければなりません。安倍政権は、国会で追及されることを避けています。臨時国会の開催を10月半ばまで引き延ばすことも怪しからん話です。民主党をはじめ野党各党は、閉会中の委員会審査はもとより、国会の開催の前倒しを強く求めています。

中でも、福島原発の汚染水問題は深刻です。福島原発の最終処理と、使用済み燃料の最終処分については、東電とは切り離して、国の責任で新たな組織を作り、思い切った取り組みをすべきだと思います。国だけでなく、電力各社や原子力関係産業が出資や費用負担をすることを前提に、国が資金の裏付けをすること。放射能をコントロールする技術開発が前提になるとすれば、その司令塔は、国の原子力研究開発機構を中心に人材を集めた組織とし、世界中から参加を募ってこの問題に思い切った取り組みをする必要があります。東電は、相応の負担をするにしても、基本的には、福島を中心にした被害者への補償と除染に対応することで、責任を全うし、発電事業の継続にも目途をつけることとすべきだと思います。福島原発の最終処分に向けて関係金融機関に対しても、東電の破たん処理で責任を問うのではなく、逆に、福島最終処分に、相応の資金協力を要請することで、前向きな体制が作れることとなります。

今、考えてみると、こうした議論を前提に、反対を押し切っても、私たちの政権下で、コンクリート遮水壁でサイトを囲むという思い切った対応に踏み出せなかったことが悔やまれます。

○再び地方回りへ

党の幹事長代行として地方回りをしています。民主党として、政策課題をはっきりさせて、責任者を決め、党の結束を図りながら戦う態勢が出来てきたことの説明や、党の総支部長（衆参の候補内定者）の選任作業が始まってきたこと、統一自治体選挙など次の課題や体制の説明をしています。石川県や福井県を皮切りに回り始めていますが、苦しいなりに、皆、腹が据わってきたようにも感じます。

福井県では、台風18号の被災現場を視察しました。二日で二か月分の雨が降った状況で、三方湖があふれ、周辺の川の堤防が決壊し、土石流で民家が押しつぶされる被害が起きています。山が崩れる予兆を感じ取って、直前に逃げることでできた皆さんにお会いし、「命が助かってよかった」という言葉に、私も一緒に涙ぐんでしまいました。

台風の中身もこれまでと違う形が観測され、ゲリラ豪雨や竜巻などの局地的な、とてつもなく極端な災害も頻発しています。事前の予報や避難勧告の出し方が十分でないという声が現場に行くと聞こえます。市長さんも途方に暮れています。気象庁や専門家も難しいと頭を抱えますが、私は、それこそ、日本が率先して技術開発する分野だと言っています。そのためのスーパーコンピューターだし、雨雲観測のレーダー網です。さらに集中して多くの科学技術予算を配分すべき分野です。地震の予知とともに、科学者の皆さんには、しっかり奮起して欲しいところです。

○選挙区の公認内定者の選任

衆参選挙で落選をして、次への挑戦をしている仲間に出会う機会が多くなっています。当初の茫然自失状態から立ち直り、どの眼にも強い光が戻っています。一部、政治の世界から他に挑戦をしていく人たちもいますが、多くは、捲土重来を期して頑張っています。党としても公認候補の内定作業に入りました。1次、2次、3次選考と時を追って、回を重ねていきますが、1次の内定は10月半ばくらいから決めていきます。1次選考で決まる候補は、候補者の後援会など支持者を中心に、周辺から広く、ぜひ引き続き挑戦して欲しいという声が出ているような人材になります。2~30人を想定しています。2次以降は、本人の選挙に対する努力が大きく評価される予定です。

新人や女性の発掘も含めて、選挙区によってはオープンな形で、一般に候補者を公募したり、党員やサポーターで予備選挙をして決めることになっています。皆さんから応援していただける候補者を各選挙区で立てられるようにしていきたいと思っています。